



救急医療における BNP活用の扉

座長 **小武海 公明** 先生

東京慈恵会医科大学附属柏病院 循環器内科 准教授

演者 **新井 隆男** 先生

東京医科大学八王子医療センター 准教授

救命救急センター長

BNP

日時 **2017年10月24日(火)**
11:55~12:55

会場 **リーガロイヤルホテル大阪
ウエストウイング 2階 楓【第7会場】**
大阪府大阪市北区中之島5-3-68

◎ランチョンセミナーは、整理券制です。

配布場所：リーガロイヤルホテル大阪 タワーウイング 3F ロビー

配布日時：10月24日(火) 7:00~11:25

※整理券がなくなり次第、配布を終了いたします。

※整理券はセミナー開始直後に無効となります。

【共催】第45回日本救急医学会総会・学術集会

塩野義製薬株式会社 / 東ソー株式会社 / 株式会社LSIメディエンス /

アボット ジャパン株式会社 / シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社 /

積水メディカル株式会社 / 富士レビオ株式会社 / アリーア メディカル株式会社

救急医療におけるBNP活用の扉

新井 隆男

東京医科大学八王子医療センター 准教授 救命救急センター長

BNP (Brain natriuretic peptide) は心臓への負荷及びストレスにより心臓から分泌されるホルモンである。同様に心臓から分泌されるANP (Atrial natriuretic peptide) は主に心房から、BNPは主に心室から分泌されている。健康状態ではBNPよりANPの方が血中に多いが心不全状態では圧倒的にBNPが多く、心不全の診断ツールとしては血中BNP濃度測定の方が優れている。

我々の臨床現場だけに限らず、疾患及び臓器「特異性」と「感度」の優れた検査が正しい判断をするために有用である事は言うまでもない。BNPについて考えるとBNPは心臓以外の臓器での分泌は皆無でありその臓器特異性は優れている。また昨今は健康診断等でも活用が始まっているように心臓の異常を早期に知る手立てとして有用であることが分かっておりその感度は優れている。迅速かつ正確な判断が求められる救急医療の臨床現場で心臓の検査に用いるならばこれらを満たすBNP測定の活用は必須であろうと思われる。

本セミナーにおいてはBNPの基本に立ち返ってその概要及びこれまでの救急医療におけるエビデンスの紹介をさせていただくとともに当センターでの解析結果の一部を紹介出来ればと思う。

BNP